

# とっとり・グローバルウォッチ

第99号 2015年2月12日発行

## 最新上海 ～現地レポート～ 83

### 上海自由貿易試験区で並行輸入を解禁、輸入自動車販売拡大に期待

先月7日、『中国(上海)自由貿易試験区(以下、「試験区」と略記)における自動車並行輸入展開の試行に関する通知(以下、「通知」と略記)』が公布され、今月9日から実施スタートする。

#### ■並行輸入参入へのハードル

平行輸入とは、メーカーや正規代理店を除く第三者が、海外で製造販売されている製品について、正規代理店を経由せずに輸入することを指す。最近中国で流行りの「代理購入」や「個人輸入」も平行輸入に含まれ、中国最大のネットショッピングサイト「タオバオ」には、こういった海外製品が溢れている。

今回の通知により、自動車についても、一定条件を満たす試験区内の企業に並行輸入が解禁され、輸入自動車の販売拡大につながる事が期待されている。ちなみに、違法改造はもちろんのこと、中古車の並行輸入は禁止されている。

並行輸入品は、正規輸入販売品に比べて、価格引き下げにつながる一方、品質やアフターサービスの保証という点には不安が多く、クレームやリコールにおける責任の所在については、しばしば問題視されている。

そこで通知では、試行に参入する企業に対して、実績と一定の経営規模を求めている。例えば、「自動車販売業務に5年以上従事し、直近3年間連続で業績が黒字であること。また、前会計年度の自動車販売額が4億円を越えていること」など。

また、消費者に対しては、次のような責任や義務を果たさなければならない。

- ・並行輸入製品の強制製品認証取得
- ・製品リコール、品質保証
- ・アフターサービス
- ・「修理・交換・返品」
- ・平均燃費測定

など

#### ■今後の見通し

並行輸入車は、メーカーの希望販売価格の制約を受けないほか、流通マージン削減が可能のため、正規輸入販売車に比べて15～30%の価格引下げが可能と見られ、輸入自動車の価格競争力アップにつながる。

目下、試行企業として認可を取得した企業は約10社。今後、3ヶ月間様子を見て、順次試行企業を増やしていくようだ。実施エリアとしては、上海港をメインとして、販売エリアは試行企業の営業範囲を対象としており、上海を中心に並行輸入された自動車の流通が拡大していく。それに加えて、ある試行企業は、中国最大のEC(電子商取引)運営会社・アリババグループとの業務提携により、投資規模を必要とする実店舗ではなく、ネット販売により全国展開を計画しているようだ。

本誌でも何度か取り上げてきたように、最近中国では、海外のネットショッピングサイトで輸入品を購入するのが流行っている。その流れは、ついに輸入自動車にもおよび、ネット販売による販路拡大の動きが見られはじめている。

#### 目次：

最新上海 ～現地レポート～ 83	1
現地発！ 台湾月刊レポート 92	2
アンニョンハセヨ KOREALレポート 33	3
ロシアレポート 19	4
東南アジアビューロー レポート 14	5～6

## 現地発！台湾月刊レポート 92

### 台湾春節

#### ■台湾におけるお正月

今年の台湾の正月は2月19日。本稿を書いている段階で師走真っ盛り。心がざわざわした感じになってきた。今年は正月が大変に遅い。日本での「旧暦の正月（旧正月）」にあたり、台湾では「春節」と呼ぶ。日本では新年会がとっくに終わった今ごろ、台湾では忘年会シーズンに飛び込む。

#### ■ボーナスと人材流動の関係

新しい年には、日本と同じでいろいろなことが動く。まず台湾人サラリーマンにとって気になるのは、年終獎金と呼ばれるボーナスだ。企業業績によって各企業の額が大きく異なる。民間調査機関によると、ボーナスの平均支払額は1.34ヶ月分、平均額は5.1万円(20万日本円弱)になるとのこと。昨年より0.01ヶ月分増えた。調査対象の内17.4%が、過去最高支給額となったそうである。大手企業である台湾プラスチックでは4ヶ月分、台新金銀行では10ヶ月分。台湾ではないが、ニューヨーク証券取引所に上場した中国大陸のアリババは、100ヶ月分の支払というところで、大きなニュースとなっている。

ボーナスの支払は、経営者にとって頭の痛いことでもある。多数の台湾人が、ボーナスもらった途端に会社を辞めるからだ。在台日本人にとっては「なんでこの人が…」と大きな精神的ショックを感じるシーズンなのである。日本人がたむろする飲み屋では「家族のように良くしてやったのに」「こんなにボーナスを出したのに」と、怨嗟の声が聞こえてくる。特に台湾に進出したばかりの日本人経営者は、台湾が優しい国だと思っていた分、現実のどん底に突き落とされ、悪夢の正月を迎える。二十代後半の台湾人は、自分探しで他企業に移ったり、学校に行ったりする。三十代以降になると、単純に月給の高い方になびく。このあたりが、日本人の感覚とかなり異なる。対応する日本人としては、精神的にタ

フになり、これを受入れ、粛々と新しい人材を探すしか方法がない。なぜなら、代わりの人材は、同時に他企業からも大量に放出されているのだから。一年で一番、人材が流動するシーズンの到来である。

#### ■経済情勢

さて、1月30日に重要な経済指標の発表があった。2014年のGDP速報値である。結果は前年比+3.51%。iPhone関連等、ハイテク製品に対する海外需要の堅調で、三年ぶりの高水準を記録した。ただし、政府としては、大陸及び欧州の影響があり、今後は鈍化するとの見方を示している。

また、身の回りの物価がジワジワと上昇している。春節明けからは、原油安が続くにもかかわらず、台北のタクシーが大幅に値上げをする。値上げ率は14%。基本料金の1.25kmで70元(280円)は変わらないが、250mで5元(20円)から、200mでメーターがあがることになる。同時に、のろのろ運転・停止時の時間加算は、現在100秒で5元(20円)から、80秒になる。日本に比べればまだ安い、相当な値上だ。

ちなみに春節中は、どの時間に乗車しても特別加算料金が、20元追加されることに注意されたい。春節期間中は、いつも賑やかな店も閉まり、都会住まいの人は故郷へ帰る。この時期に訪台すれば、いつもと違う台湾が感じられるかもしれない。

ここで一点、台湾へ度々訪問される方に朗報。過去、12ヶ月以内に3回台湾を訪問された方は、「常客証」が発行してもらえることになった。これがあれば、桃園空港での出入国審査がスピーディーに行えるとのこと。興味のある方は、以下のHPを参考にさせていただきたい。観光旅客でもOK、一年間有効。

<http://www.taipeinavi.com/special/5053440>

## アンニョンハセヨ KOREAレポート 33 韓国のゲストハウス

### ■増加するゲストハウス

ソウルにおける観光・ショッピングの名所となった明洞や弘大などの都心で、ゲストハウスが急増している。

ゲストハウスは、主要な観光スポットに近く、旅行者に宿泊空間を安く提供する。寝室はドミトリー形式で、数名が一緒に泊まり、シャワー室と厨房は共同で使用。簡単な食事を提供する所もある。既存のユースホステルよりは小規模であるが、民宿よりは都会的な形が特徴である。



明洞に登録されたゲストハウスは現在、63カ所で、2012年（11カ所）に比べて約6倍に増加した。弘大も商圈の拡張により、近隣地域を含めて108カ所に達する。

### ■増加要因

ゲストハウスが増えた要因として、以下の3点が考えられる。

第一に、韓流による訪韓外国人観光客の増加が挙げられる。文化体育観光部の調査によると、2014年に韓国を訪問した外国人観光客の数は、約1,400万人で、2013年（約1,200万人）に比べて16.6%の増加率を見せた。現在、宿泊施設の需要は拡大しているが、供給がそれに追いついていない状況である。これに対応するため、観光地に近い弘大・明洞地域の住宅がゲストハウスに用途を変える傾向にある。これに関しては、次にあげる支援制度が大きく関係している。

第二に、制度的な支援の影響である。2012年に韓国政府は、延べ面積が230㎡未満である一般単独・多世帯住宅とマンションなどを対象に「外国人観光都市民宿業指定制度」を実施しており、これによりゲストハウスの数が大幅に増加した。該当住宅に直接居住する者が、外国人のみ客として迎えるという条件で、建築許可や事業計画の承認なしに、区役所への指定申請のみで許認可を得ることができるのだ。

第三に、他の宿泊施設とは異なるゲストハウスの特性によるものと考えられる。部屋を含む様々な所を他の旅行者と共有することで抑えられた料金は、若い観光客にとって魅力的だ。また、共有することで、宿泊者同士、情報交換等のコミュニケーションがとれる点も魅力のひとつだ。

ゲストハウスは共有空間が多いほど、衛生や盗難などに注意が必要だ。基本的に備えるべき快適な環境と安全を、宿泊施設は客に提供できるよう投資しなければならない。

また、ゲストハウスを利用する外国人観光客の大多数が20～30代である点を考慮して、彼らのニーズを満たしたコンセプトを立てなければならない。たとえば、多様な文化行事やパーティーを通じて、旅行者間の交流の場を積極的に提供するなど、単純な宿泊施設ではなく、旅行のひとつの楽しみとしてとらえられるような仕掛けが必要だ。このように旅行者のニーズに応えられるかどうか、ゲストハウスの成功を左右するといっても過言ではない。



【安進会計法人 キム・ミョンギョ】



## ロシアレポート 19 カジノ特区「プリモリエ」

### ■カジノ特区について

「プリモリエ」とは、政府が指定した極東のカジノ特区である。ロシアの法律では、2009年6月1日から賭博は4つのカジノ特区だけで行えることになった。他の3つのカジノ特区は、カリーニングラード州、アルタイ地方及びクラスノダール地方である。「プリモリエ」は、ロシア国内で最大のカジノ特区になる予定だ。「プリモリエ」の場所はウスリー湾、チェレパハ岬で、ウラジオストク市内から50km、ウラジオストク国際空港から12kmの距離にある。面積は620ha。カジノ特区ではカジノ以外にも、ホテルやショッピングモールなどが建設される予定で、利用客の70～80%は東南アジアからの観光客と予想される。



プリモリエにおける初のカジノ施設は、「Tiger de crystal」（水晶虎）という客室140室のホテルで、オープンは2015年春になりそうだ。客室は300ドルから、スイートは2000ドルほどになる見込み。開業に向けて、ディーラーの学校が開校されるなど、準備が着々と進んでいる。

「Tiger de crystal」は、2010年設立した合弁会社The First Gambling Company of the East

と沿海地方行政の国際協力・観光発展局が出資し、行政が道路・上下水道工事を担当。また、内装工事は中国の会社が行い、建材はロシアのものが使うが、装飾物は中国から輸入している。

### ■エンターテイメント総合施設として

「プリモリエ」は、カジノだけではなく、家族で楽しめるリゾートを目指している。面積の15～20%はカジノが占めるが、それ以外はエンターテイメント施設が建築される計画で、風光明媚なチェレパハ岬は観光客にも楽しんでもらえると期待している。

最終的に、8つのカジノと7つのホテル、他にショッピングモール、レストラン、スポーツクラブ、スキー場などが建築される計画で、中国やアメリカ、日本の投資家が関心を寄せており、現在の投資額は14億USドルだ。カンボジアのカジノ最大手で、首都プノンペンにある「ナガワールド」を運営するNaga Group（金界控股）は、3億5000万ドルを投資する計画だ。

### ■カジノによる経済効果

カジノ特区の建設は、沿海地方を発展させ、観光客の増加や失業率の低下に寄与すると一部専門家は見ている。「プリモリエ」の年間の予想利益は1.8億ドルになると推測されており、それに伴う納税も期待される。ウラジオストクと東京、北京、ソウル等主要都市を結ぶ飛行機による移動時間は、マカオとのそれと比べると短いと、東南アジアからの来訪者が増加すると予想される。「プリモリエ」は、最終的にはマカオを抜き、アジアで一番大きいカジノ特区になることを目標に掲げている。

【鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンター  
シリネワ・クセーニヤ】



## 東南アジアビューロー レポート 14

### Japan Tourism Award in Thailand 2014

#### ■Japan Tourism Award in Thailand

日本政府観光局（JNTO）本部からのリリースによると、2014年のタイから日本への訪日外客数は、1月～12月までの累計（推計値）では657,600人、前年同450,000人と比較すると、45.0%増で史上最多を記録した。これを受け、その実績に貢献されたであろう、個人・団体、企業が表彰されるイベントが行われ、その式典に鳥取県東南アジアビューローも招かれ、参加してきた。

2015年1月19日、日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所主催のもと、在タイ日本国大使公邸にて「Japan Tourism Award in Thailand 2014」が開催された。これは、訪日旅行に貢献した旅行会社、個人・団体に対しての表彰式で、今回で5回目とのこと。今回は、旅行業者39社、個人・団体5組がトップエージェント賞などの3つの賞で表彰された。

日本観光誘致へ貢献したとの評価を受けての特別賞は、以下の3グループ。

●チャンネル3のドラマ「Rising Sun」シリーズ。タイ人人気俳優が日本人に扮したドラマで、春と秋の2回、千葉県にてロケなども行った。このドラマの影響でロケ地の観光ツアーも組まれた。

●日本人俳優の佐野ひろさんが、制作とレポーターを務める訪日観光番組「Sugoi Japan」。タイの視聴者が「すごい」と思うような観光地を、佐野さん自身が紹介している。映画やドラマに多数出演し、知名度の高い日本人俳優である佐野さん自身によるレポートは、タイ人への影響も大きい。

●タイ・エアアジア X社。2014年9月にバンコクー成田線、バンコクー関西線を就航させ、その手頃な料金はタイ人及び日本人ともに歓迎されている。日本路線の機内にて、テーマパークの入場券や空港発の列車の切符を販売するサービスを行うなど、訪日観光に貢献している。

タイのテレビ番組を見ていると、日本に関連するドラマやバラエティー番組は以前から目にしたが、タイ人レポーターが日本の観光地へ実際に出向き、レポートをする番組がとて増えているように感じる。これは、団体ツアーではなく、若者の個人旅行を対象にしており、日本への観光を考えている彼らのニーズに対応している。タイ人の日本への憧れのようなものが、だんだんと身近になり、現実化される工程には、上記のようなメディアの影響が大きく、またそれらが日本観光にも貢献していることがよくわかる。

タイ人を旅行目的で誘致した旅行会社に与えられるトップエージェント賞は、訪日ツアーの販売実績が多い旅行事業者39社が受賞した。このうち、5年連続表彰された事業者をゴールドクラス・トップエージェント賞と位置付け、H. I. S Tours Co., Ltd., JTB(Thailand)Limited, Quality Express/Go Holiday, Siam Orchard Group Co.,Ltd., World Surprise Travel Co.,Ltd. などが受賞した。



（表彰式の一場面）

次頁へ続く…



タイは、個人旅行に対するガイドブックが思いのほか充実しているという話を聞いたことがある。実際に個人旅行をしたタイ人によるタイ人目線の情報を、内容に工夫を凝らしてわかり易く読者に伝えている点が魅力のようだ。ユニーク・ガイドブック賞として表彰された会社2社のガイドブックを紹介する。

●『Japan in your heart : 誰でも旅行できるシリーズ』Forward Publishing House制作・発行。

世界18か国のガイドブックを出版しており、日本を扱ったガイドブックは計8冊で、日本旅行に必要なアクセスや施設情報等が詳しく紹介されている。

●『ガイドなしで回れるSpecial!遊園地・テーマパーク・博物館』Mr. Teddy著。

著者は日本での留学経験があり、関東・関西を中心とした39か所のテーマパークや博物館に特化した内容となっている。

今後もまだまだ日本旅行ブームは続きそうだ。メディア、旅行社、ガイドブックなどにより今年もまた新しい日本各地へのツアーや個人旅行に対する情報がタイ人へ発信されていくだろう。東南アジアビューローとしてもこの機を逃さず、積極的に鳥取県をアピールしたい。

表彰会場では、日本各県の展示スペースが設けられ、沖縄県、愛知県、静岡県、秋田県、福岡県、鳥取県等が、県のポスターやパンフレットを用いて、旅行関係者等にPRを行った。我が鳥取県もポスター2種と鳥取砂丘のらくだで表紙を飾った雑誌を持参し、観光客誘致に向けてアピールした。(ちなみに帰り際の展示物回収時にざっと見渡したところ、パンフレット類がすべてなくなっているのは鳥取県のみだった。)



(表彰式会場における展示スペース)

【鳥取県東南アジアビューロー 川南】

**本誌は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。**

**公益財団法人 鳥取県産業振興機構  
とっとり国際ビジネスセンター**

住所 境港市竹内団地255-3

Tel 0859-30-3161

Fax 0859-30-3162

Email kaigai@toriton.or.jp

URL <http://www.tottori-kaigai.com/>